はじめに

本書は3部門、全10章から構成される学際的なアメリカ研究書である。アメリカについて書かれた研究書は多いが、本書は初学者を対象として政治・国際関係・歴史・社会・文化といった複数の研究分野からアメリカを理解するために役立つ重要な問題の解説やユニークな視点の提供を試みる点に特徴がある。

振り返ってみれば2020年はアメリカにとって激動の年であった。この年は世界規模で新型コロナウイルスのパンデミックが続いたが、アメリカは諸外国と比べて新型コロナウイルスの感染者数や死者数が圧倒的に多かった。全米に新型コロナウイルスの感染者が急速に広がってきたため、共和党のトランプ（Donald J. Trump）大統領が国家非常事態宣言を出したのが2020年3月13日、続いて首都ワシントンDCでは3月30日、バウザー（Muriel Bowser）市長によって住民に対して食料や生活必需品を入手するなど必要不可欠な場合を除いて、原則として外出を禁じる命令が発令された。

パンデミックの中で5月25日、アメリカ社会を大きく揺るがす事件が起きた。白人警官によって首を抑えられて黒人男性のジョージ・フロイド（George Floyd）が死亡したのである。これをきっかけに全米で人種差別抗議運動のBLM（Black Lives Matter）運動がかつてないほどに活発化した。この抗議運動の高まりを鎮静化するため、トランプ大統領が軍の投入を辞さない姿勢を示すと、ワシントンDCのバウザー市長は6月5日、トランプ大統領の強硬姿勢を批判して、ホワイトハウス近くの交差点の名称を「Black Lives Matter」プラザに変更し、道路を黄色くペイントした[1)]。

秋には、大統領選挙で再選を狙い、選挙キャンペーンに精力的に動いていたトランプ大統領自身も新型コロナウイルスに感染した。コロナ禍が続く中で11月3日に行われた大統領選挙は、記録的な高い投票率となった。選挙の結果、現職大統領の共和党トランプ候補が敗れ、2021年1月20日の就任式で民

主党バイデン（Joe Biden）大統領が誕生した。

パンデミックから約1年後の2021年2月22日、アメリカの新型コロナウイルスによる死者数はとうとう50万人を超えた。バイデン大統領はその追悼式で、「本日、私たちは本当に残酷で悲痛な節目を迎えた」と述べている[2)]。新型コロナウイルスのパンデミックがアメリカ社会に与えた影響は計り知れない。

そこで、本書の第Ⅰ部は、アメリカ国内の政治や社会が抱える諸問題について、それぞれ独立した視点から論じつつ、大統領選挙、コロナ禍、BLM運動といった2020年のアメリカの状況にもできるだけ光を当てて解説することを試みる。

第1章の「ソーシャルメディアを活用したアメリカ大統領選挙キャンペーンの発展」では、アメリカの大統領選挙キャンペーンがインターネットやソーシャルメディアの普及によってどのように発展してきたのか、という点について2000～2020年の大統領選挙を対象としてその特徴や変化を説明している。第2章の「『メディアの分極化』から見るアメリカのメディア環境の変容」は、1960年代以降のアメリカのメディア環境の変化と「メディアの分極化」の状況について解説し、2020年大統領選挙も射程に入れて、アメリカ政治とメディアの関係の展望を検討する。第3章の「コロナ禍とポスト・オバマケアをめぐる争い ― 皆保険成立を阻む政治文化的要因 ― 」では、アメリカの政治文化的要因に注目して、アメリカの医療保険政策の歴史的発展と現在進行形のバイデン政権の改革に関連した動きを理解しようと試みる。第4章の「ブラック・ライヴズ・マター運動から振り返るアメリカ黒人の歴史 ― ステレオタイプに対するグローバルな闘い ― 」は、20世紀のアメリカ黒人たちの抵抗の歴史を振り返る。とりわけ黒人に対する差別やステレオタイプ化がアメリカ国内のみならずグローバルに行われてきたことから、黒人たちの抵抗運動が国境を超えた連帯の中で展開されてきた点に注目する。第5章の「アメリカ中絶論争の歴史と現在 ― ジェンダーと生命・選択の自由・正義 ―」は、2020年大統領選挙でも中絶をめぐり共和党のトランプ候補と民主党のバイデン候補が対照的な立場を表明したことに言及しており、アメリカにおける中絶論争の歴史的

経緯と重要な論点を再検討している。

第Ⅱ部はアメリカと諸外国との関係について歴史的な経緯を踏まえつつ、最新の状況を分析する章が続く。第6章の「アメリカはアジアをどう見ているか ― 乖離する相互イメージ ―」は、アメリカにとって日中関係はどのような政策的意義を有しているのかを概観する。第7章の「アメリカの通商摩擦と世界貿易機関（WTO）改革」では、WTOの機能不全の要因を分析して、トランプ政権からバイデン政権への政権交代による変化を視野に入れて、アメリカの通商摩擦に対応するWTO改革をめぐる動向を検討する。

第Ⅲ部では、スポーツや音楽といった文化の視点からアメリカ社会への理解を深め、アメリカ研究の視野を広げることが期待できる。2020（令和2）年東京オリンピックの開催が新型コロナウイルス感染拡大によって延期されたが、第8章の「アメリカのオリンピック・センチュリーと社会正義の実現」では、アメリカ研究の立場から、20世紀をアメリカの「オリンピック・センチュリー」と捉え、その歴史を「社会正義の実現」という観点から振り返ることによって、オリンピックの存続をめぐる論争に一つの切り口を提示することを目的とする。第9章の「アメリカ社会におけるクラシック音楽の巨匠」は、国内外で活躍するピアニストによる執筆という点でユニークな章となっている。第9章は、20世紀以降にアメリカで活躍したクラシック音楽の3人の巨匠を取り上げ、彼らがいかにして、アメリカのクラシック音楽界の発展に貢献したかについて論じている。第10章の「在外米軍基地とアメリカのポピュラー音楽 ― 戦後日本の米軍ラジオ放送 ― 」では、「米軍基地」と「アメリカのポピュラー音楽」を切り口にして、アメリカ合衆国の国外における「アメリカ」に眼を向けており、米軍のラジオ放送に注目しながら、在外米軍基地が現地社会におけるアメリカ音楽受容を媒介した過程を描いている。

本書の執筆者の所属先は様々だが、一つの共通点がある。執筆者は、明治大学情報コミュニケーション学部で筆者がコーディネーターを務めた授業に2020年度に登壇していただいた方々である。これは、学部3、4年生を対象として、アメリカ社会を多角的に見る目を養うことを目的としており、研究者として第一線でご活躍中の他大学や他学部の教員にもご登壇いただくリレー講座

である。珍しいところでは、ピアニストの実演を交えた講義も行われた。そのため、本書は研究書でありながら、初めてアメリカ研究に取り組もうとする学部生などを読者に想定して執筆されており、アメリカ研究の入門書や教養書という位置づけにもなりうるだろう。本書を読めばアメリカ社会の隅々まで網羅できるというものではないが、本書が読者の皆様にとってアメリカを多角的に理解する一助になれば、望外の喜びである。

編著者　清原　聖子

注

1）「『黒人の命は大事』、ホワイトハウス前に巨大ペイント　米ワシントン」、BBC ニュース、2020 年 6 月 6 日［https://www.bbc.com/japanese/52946012］（2021 年 6 月 2 日）。

2）「アメリカの死者、世界最多の 50 万人に『残酷で悲痛な節目』とバイデン大統領」BBC ニュース、2021 年 2 月 23 日［https://www.bbc.com/japanese/56150925］（2021 年 6 月 2 日）。

教養としてのアメリカ研究

目　次

はじめに…… 清原　聖子 … i

第Ⅰ部　政治・社会

第１章　ソーシャルメディアを活用したアメリカ大統領選挙キャンペーンの発展…… 清原　聖子 … 2

はじめに　2

1. アメリカの有権者は選挙に関心が高いのか？　3

2. アメリカの大統領選挙の仕組みとプロセス　5

3. アメリカの大統領選挙キャンペーンの特徴　8

4. インターネットを活用した大統領選挙キャンペーンの発展　9

5. 2020 年大統領選挙キャンペーン　14

おわりに　17

第２章 「メディアの分極化」から見るアメリカのメディア環境の変容 …… 清原　聖子 … 23

はじめに　23

1. CNN による 24 時間ニュース報道の始まり　25

2. 市場の競争促進と党派的なメディアの台頭　27

3.「メディアの分極化」とメディア不信　31

4. オンライン上の集団分極化と新たな課題　34

5. 2020 年大統領選挙に関する情報をめぐって　36

おわりに　38

第３章　コロナ禍とポスト・オバマケアをめぐる争い ―皆保険成立を阻む政治文化的要因― …… 山岸　敬和 … 43

はじめに　43

1.「最も保守的な国」アメリカ　44

2. アメリカン・ドリームと医療保険　47

3. オバマケアの成果　50
4. トランプ政権と新型コロナ　54
5. バイデンケアを取り巻く政治的環境　56
おわりに　58

第４章　ブラック・ライヴズ・マター運動から振り返るアメリカ黒人の歴史
— ステレオタイプに対するグローバルな闘い —…… 荒木　圭子 … 62
はじめに　62
1. 人種とステレオタイプ　63
2. パン・アフリカニズムの発展　67
3. 公民権から人権へ　71
おわりに — 日本に住むわれわれに突きつけられた課題 —　75

第５章　アメリカ中絶論争の歴史と現在
— ジェンダーと生命・選択の自由・正義 — …… 兼子　歩 … 80
はじめに　80
1. 中絶の容認から犯罪化へ　81
2. ロウ判決への道　84
3. プロライフ運動の興隆　86
4. 中絶論争と中絶の権利の展開　89
5. プロライフとプロチョイスが見えなくするもの　93

第Ⅱ部　外交

第６章　アメリカはアジアをどう見ているか
— 乖離する相互イメージ —…… 伊藤　剛 … 102
はじめに　102
1.「中国＋日本＝ゼロ」の視点 — アメリカにとっての「日中離間」—　105
2.「東アジア共同体」と、中国による「覇権」　110

3. 米中対立と台湾海峡の安全　113
おわりに ― 再び「中国＋日本＝ゼロ」の視点 ―　117

第７章　アメリカの通商摩擦と世界貿易機関（WTO）改革
…… 松本　明日香 … 122
はじめに　122
1. 先進国対新興国間の対立　127
2. 組織制度・運用の対立（内的要因）　129
3. アメリカ国内党派性・支持基盤の違い　133
おわりに　136

第Ⅲ部　文化

第８章　アメリカのオリンピック・センチュリーと社会正義の実現
…… 川島　浩平 … 144
はじめに　144
1. オリンピック・センチュリーと社会正義　145
2. 階級格差の克服　148
3. 人種の壁への挑戦　152
4. ジェンダーの境界と調停　158
おわりに ― 東京 2020 と近代オリンピックの行方 ―　163

第９章　アメリカ社会におけるクラシック音楽の巨匠　…… 佐藤　彦大 … 168
はじめに　168
1. アメリカとヨーロッパの時代的背景　168
2. ロシアからアメリカに渡ったスーパースター　170
3. アメリカらしいクラシック音楽の誕生　179
4.「アメリカらしさ」を超えたもの　184
おわりに　187

第 10 章　在外米軍基地とアメリカのポピュラー音楽
— 戦後日本の米軍ラジオ放送 — …… 青木　深 … 192
はじめに　192
1. 米軍基地の海外展開と音楽産業　193
2. 在日米軍基地とアメリカの音楽 — 占領期・ポスト占領期の米軍放送 — 198
おわりに　208

人名索引 …… 213

事項索引 …… 215

執筆者紹介 …… 219